

## 【第2回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録（概要版）

日時：平成30年7月30日（月） 午前14時00分～16時00分

場所：松戸市役所（新館5階）市民サロン

出席委員：10名（別紙名簿の通り）

欠席委員：1名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐、  
21世紀の森と広場管理事務所所長、所長補佐、街づくり課課長補佐  
他6名

傍聴者：0名

議事（司会：21世紀の森と広場管理事務所所長補佐）

1. 第一回委員会での質問に対する回答
2. 各委員の意見発表
3. 今後の進め方
4. 委員会のスケジュール予定

### 配布資料

1. 第一回議事概要（案）
2. 議事次第
3. 出席状況
4. 第2回委員会資料

第一回議事録署名人：赤羽副委員長、佐藤委員

第一回議事録概要版については全員一致で承認

### 1. 第一回委員会での質問に対する回答について

#### 【事務局】

- ・利用者特性の説明
- ・HPアクセス
- ・公園周辺主要施設位置図

質問・意見は無く了承された。

## 2. 各委員の意見発表

- ・レクリエーションが専門なのでその視点から意見を言いたい。自然豊かな森と広場があるが、〇〇広場のイメージがしにくい。ストーリー性のあるテーマとネーミングが必要では？少しリニューアルすればよくなる。
- ・パークセンターではバードウォッチングのプロの知的好奇心を満たすような工夫がほしい。
- ・トイレをリニューアルする必要がある。ユニバーサルデザインの観点も必要。トイレがきれいだと女性が集う。男性の利用も増える。AED 常設も必要。
- ・カフェテラスは特徴がほしい。改装してわくわくする場所にしたい。レストランは名前がほしい。キッチンカーも利用してはどうか。ショップはホールや博物館とコラボしてキャラクターグッズなどがあると良い。
- ・園路については来園者の4割以上が高齢者であるため、車いすでも散策できる舗装としたい。
- ・禁止事項が多いが、許可制にして一部認めるということは可能か？多くの人が利用して地域を活性化できるように。シンボルも必要。
- ・遊具については自然をモチーフにした遊具、既存の概念に捉われないものがあるとよい。子ども、学生に発案してもらおう公募型にしてはどうか？
- ・観光学の視点。大衆観光は自然に対する負荷が大きいがサステイナブルツーリズムが重要。松戸にある自然を残していくというコンセプトを重視したいが、どのレベルまで残すのかが重要。手付かずの自然か、都市の中で触れられる自然か、自然ぽいものかによる。自然にどれくらい手を入れるかを決めていくことが大切。
- ・遊具以前にトイレが大事。学生でも入れないという状況になっている。洋式化、清潔感が必要。その上でレストランなど施設の改修となると思う。
- ・夜の利用も考慮してはどうか。季節を問わずに早い時間で閉園となっている。街は夜でも明るい、夜を観察できる場である。暗さの体験、夜の利用も検討してはどうか。
- ・遊具は「あれをやりたいからここに行きたい」代替性のないものがよいと思う。ボール遊びや花火もできる場所が少ない。エリアを限定して使えるようにしてはどうか。
- ・基本の方針について異論はない。開園当初のコンセプトは守っていくべき。どういった自然との触れ合いをするのか？現在は触れるというよりは見て眺める公園になっている。どこまで自然に入り込むか。森の中でお茶を飲めるくらいにはしたい。

- ・魅力アップとしてはエンターテインメント性が不足しているので、公園にマッチした遊具の設置がよい。教育的なものでなく遊んでいるうちに自然と学べるものがよい。キッズニアでは子ども議会（10人程度）でイベントや遊具について議論させ、商品作りにも取り入れた。アイデアを子どもたちからも集めていく。
- ・遊具はアートを意識しながらも、楽しいものであることが重要。
- ・博物館から出入りできることも知られていない。アクセスなどの分かりやすさやアピールが必要。売店もあるとよい。
- ・工芸館など使っていない感じがする。市民の手芸品・工芸品を展示したり売ったりする場所にしていってはどうか。
- ・トイレの数・質は見直すべき。ベビールーム、パウダールームも必要。車いすが回転できるスペースを持ったトイレが必要。
- ・犬の同伴について、エリアを区切って検討してはどうか。
- ・NHK ランスマのようにインストラクターに来てもらって開催すれば集客に繋がる。
- ・アクセスが良くないので改善が必要。
- ・富山のスターボックスや大濠公園のスターボックスなど、スターボックスが良いわけではないが、おいしいお茶が飲めて、大人がくつろげるような空間を提供したい。
- ・目標の設定、根拠となる数字を持つことが大切。アンケートを取った方が良いといったこともそういう意味。
- ・方向性としては異論ない。
- ・2023年までに90万という目標があるのであれば、積み上げの根拠が必要。困難なミッションのように感じるが、少しでも近づけるように考えるべき。
- ・遊具はアート系もありとは思いますが難しい。子供がメインと考えると飛び跳ねる、滑り降りるなど単純なものや、はっきりとした色を好む。規格品ばかりだとオリジナリティがないとはいえるが、オリジナリティを持たせると維持管理が大変。イベント的に仮設でやるにはそういうものもありだが、遊具としては専門家・専門業者が作るものの方が良い。専門メーカーに案を出させるのもよい。
- ・これだけの公園があることが驚きだった。世界的にも市の中心部にこれだけの規模の公園があるのは珍しい。作った時の目的をしっかりと決めて、たんと地道に運営されてきたことを感じた。流

行りのものを持って来るとゴテゴテしてどこも同じようになる。ただし、社会のニーズに応じて変化させていくことは大切。

- ・水辺、森、広場がある。自然を引き出していく仕組みが必要。草原、はらっぱが関東では減っている。そういう自然に生息する生き物も大事。森だけでなく、はらっぱや湿地などを保全して市民と育み、情報発信する事が大事。パークレンジャー、環境保全、環境教育、絶滅危惧種、珍しいもの、バッタがくるはらっぱ、カブトムシ、裸足で入ることができる水辺をやっていく仕掛け、仕組みを作っていけばよい。
- ・アウトドアスポーツも取り入れると集客できる。3、40代の親子層が自然と遊ぶのは楽しいと思うようにしていくのが大事。人材育成、イベントを繰り返していくうちにボランティアが育っていくような仕組みを作ることも可能。
- ・パートナーシップ 地域の協働 パークコーディネーター 地域の連携なくして公園の運営は成り立たない。まちの事業者、大学、小中学校、アーティストなど地域の資源となる人々が公園づくりに関わっていくとよいと思った。ハードは整っているので、しくみを造ると良くなる。
- ・水辺の環境が素晴らしい。商工会議所はイベントを街中でやるが、行きたい！というワクワク感や目的が必要。生活の中に新しい要素を付け加えていけばよい。
- ・食事所が残念。儲かる努力をすれば客も喜ぶことに繋がる。もっと工夫がほしい。おしゃれにしてほしい。3世代が楽しめるイベント。
- ・遊具については、子どもたちが楽しめるものが良い。ふわふわは子どもたちが長蛇の列になるほどの人気がある。危険・事故については考慮が必要、どの辺の世代まで楽しめるのかも大事。
- ・6、70代の散歩だけでは残念。集客による経済効果がほしい。
- ・地域固有の自然をできる限り守ることで公園が育まれてきた。平成5と28年の比較を見させてもらったが、ある程度守られてきたことが分かる。これは継続していきたい。
- ・千駄堀池の外来生物、公園の魅力アップの点からの遊具、子どもから高齢者まで利用できる公園（ユニバーサルデザイン）を整備、文化的環境についてはホールや博物館との連携を強化する必要がある。
- ・これからの展開として、各ゾーンの強弱、自然尊重、緑の創出。
- ・みどりの里は農を生かした体験などできると良い。
- ・遊具は自然素材、連続性、水との関係、幼児や高齢者のスペースがあるとよい。

- ・カフェは切り株のイメージ？広大な水面を味わうことができる空間とするとよい。
- ・茶屋は人の流れが弱い。茶屋の前の休憩スペースとあわせて検討するのがよい。
- ・高木小学校のマラソンコースだった。見ているようで見ていなかった。アートのことでも係わったが、近所の者でさえ全ての事をわかっていない。周知することが大切。
- ・経済的なバランス、市民の中でのバランスが大事。受益者負担のしくみを考えたい。
- ・協働の話があったが、行政と市民、企業で花畑を23年間作っている。素晴らしいものがあるにも関わらず評価されていないものがある。緩やかな連携（施設の連携、活動している人達の連携）持続していくこと、得意分野で関わる。負担にならないことが大切。
- ・「木になる風景」木登りしたくなる木、不思議な形のユーカリにのぼる。木と人の関わりが分かるものがあると良い。遊具を作るときも木と森とかかわりを感じるものとしてほしい。常盤平でビーチコーミング的なイベント、ゴミ拾いで集めたものでアートをつくるというようなイベントをやっている。
- ・持続可能なことが大事。何十年後も維持できる仕組みを考えたい。
- ・以前から地域の方々との意見交換をさせてもらっている。緑推進委員会や地域地権者、病院含めて緑を残したい意見があるが、後継者がいないので維持出来ないという意見もある。
- ・千駄堀の自然を守り育てるというコンセプト。議会等からの要望がある。
- ・農家の方々、高齢化、後継ぎ問題、まち地域全体を見据えながら公園の在り方・地域併せて検討していきたい。
- ・遊具については、こどもが何度も来たくなる遊具があることが大切。
- ・千駄堀は開園以来一度も水を抜いていない。土砂が堆積している。外来生物も多い。外に出すと生態系に影響を与えるかもしれない。
- ・長年パークマネジメントをしている。21世紀のイメージはできているか？ポテンシャルが活かされているか？公園は19世紀半ばにできた。プレジャーグラウンドであり楽しみの場所、緑豊かな空間で一日体を動かして楽しむのが公園。多くの人に楽しみを与える場所にするには？「遊び性」が大事。最もふさわしい、行政サービスとしての遊びを提供する。
- ・22世紀になったらヘリテージになるような場所にしたい。公園が衰退すると都市が衰退する。松戸に住んでいる人たちがどれだけ協力してくれるかが大切だと考える。

### 3. 今後の進め方（部会設置）

- ・基本的、根幹的なものと具体的なものと分けたほうがいいのでは？部会によっては連携や情報共有が必要。一人の委員がだぶって行うことも必要なのではないか？

- ・部会は委員の希望でわかるのか？事務局でわかるのか？

→部会の委員は委員長が選任する。部会の人数は3名程度と考えている。

- ・4つとも興味がある。4. 自然環境などについても他の視点が必要になる。部会で話し合っても委員会(全員)でもむ必要もあるのでは？1が決まらなるとちぐはぐにならないか？1を決めてから2, 3, 4をやるのはスケジュール的にはどうなのか？

- ・基本方針で委員全体のずれはない気がする。細かいことはいいとしてその辺は決めてしまってもよいのではないか？

- ・今の話は大切。市全体の公園の整備活用に関する事なので他のこととは議論が異なる。作業的にできそうなことはカフェテラスの件について。これはカフェテラスの中身を同行するということではないですね？

→中長期的な目標については、委員会で決められたことが未来永劫正しい事として続くとは思っていない。PDCA サイクルで考えている。来年、新しい事業者を選ぶ必要性、遊具の設定はありテーマ設定や方針は大切だが、最終結論までは求めない。条件整理と実験的テーマ設定をしたい。

- ・議論は急ぐが、2、3は最終結論ではなくテーマ設定や、条件整理として考えてよいのか？

- ・3については便益施設の管理許可に関する事なので、有限の話なので来年度からの事業者選定について検討していただき、それ以降は次回以降の募集方法について検討してほしい。

- ・2については10月までに大まかな方向性、方針が欲しい。来年度実施設計をすることが必要。

- ・2、3は個別のテーマで急ぎ、1、4については時間をかけてよいということか？

→中長期的なことと短期的なことが混在しており委員からも心配されている。

- ・部会は4つ作るということか？

→できれば4つ作りたい。

- ・ 3のカフェが急ぎであることはわかったが、2の遊具については基本方針に沿うか？
- ・ どこまで自然に関わらせるか、というコンセプトが重要。コンセプトあつての遊具。
- ・ 中長期については異論がないと思う。2, 3について10月までにどこまで踏み込むか？何を作るのか？を事務局と詰める。部会の人選、中間までどこまで求めるかについてもお任せできないだろうか？基本的には4つ作る。急ぐことについては相当なブリーフィングが必要。そして淡々と議論する。専門委員をお願いすることが出来るとあるので考慮したい。みなさんにお知らせするようにしたい。8月には部会が動けるようにしたい。
- ・ 部会で決まったことは、委員会で承認されるということなのか？

→部会での議論は委員会でも審議したのちに、委員会での結論とする。時間的に御無理をお願いすることになると思う。どの案件をとっても全てに関わることになる。お互いに齟齬の無い様にフィードバックさせながら議論していくことにしたい。事務局からみなさまにご連絡する。

#### 4. 委員会のスケジュール予定

8月中に部会について提示する。

第三回委員会 10月上旬（それまでに部会を開催）

第四回委員会 市長に中間答申（案）提示

- ・ 8,9月中に部会は何回開催するのか？

→部会は各2回程度開催する。部会は非公開。委員は部員でなくてもどの部会にも参加可能とする。

以上

【第2回松戸市都市公園整備活用推進委員会】出欠状況

NO	氏名	役職等	選出区分	出欠
1	たしろ よりたか 田代 順孝	千葉大学 名誉教授	学識経験者 (都市計画)	出席
2	あかば かつこ 赤羽 克子	聖徳大学 心理・福祉学部 教授	学識経験者 (レクリエーション・社会福祉)	出席
3	みしま こうめい 三島 孔明	千葉大学 園芸学研究科 准教授	学識経験者 (環境教育学)	欠席
4	こうだ まりこ 幸田 麻里子	流通経済大学 社会学部 准教授	学識経験者 (観光学)	出席
5	あび こ かつお 安孫子 薫	株式会社チャックスファミリー 代表取締役	学識経験者 (運営)	出席
6	ひらまつ れいじ 平松 玲治	一般財団法人公園財団 上席主任研究員	学識経験者 (公園管理)	出席
7	さとう るみ 佐藤 留美	特定非営利活動法人NPO birth 事務局長	学識経験者 (市民協働・森林管理)	出席
8	とみなが ひさつぐ 富永 尚次	松戸商工会議所 理事	関係団体 (商工振興)	出席
9	こが ひろゆき 古賀 弘幸	公益財団法人 松戸みどりと花の基金 理事長	関係団体 (緑化推進)	出席
10	えのもと たかよし 榎本 孝芳	特定非営利活動法人 クリエイティブまつど工房 理事長	関係団体 (市民協働)	出席
11	ふくだ まさひこ 福田 勝彦	松戸市街づくり部 部長	本市の職員	出席